

会議名称	学会委員会（平成 29 年度第 1 回）							
日 時	平成 29 年 6 月 16 日（金）15:30～16:30							
場 所	中央病院 4 階第 4 会議室							
出席者	○	伊藤会長	○	野崎副会長	○	郷右近委員長	○	吉田副委員長
	○	池端委員	×	瀧向委員	○	中村委員	○	高橋委員
	×	望月学会長						
議 題	報告事項	1	平成 29 年度医学会役員体制について					
		2	平成 28 年度決算及び監査報告について					
	協議事項	3	平成 28 年度診療科別分科会の開催実績について					
1		平成 29 年度医学会予算（案）について						
2		平成 29 年度診療科別分科会の開催状況について						
3		医学会名誉会員の推薦について						
4		第 6 回岩手県立病院総合学会（第 49 回岩手県立病院医学会総会）について						
5		第 50 回岩手県立病院医学会総会について						
6		第 51 回岩手県立病院医学会総会について						
7	平成 29 年度春季学術集会について							
その他	1	その他						
議事要旨	<p>【会長挨拶】 お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。補助金について変更点、今年度・来年度・再来年度の医学会総会についても協議していく。活発な発言をお願いしたい。よろしくお願ひします。</p> <p>【報告事項】 1 平成 29 年度医学会役員体制について 事務局より説明。役員の変更は以下のとおり。（人事異動による所属、職名の変更は資料のとおり。） ○評議員 ・山田病院 平泉 宣先生 → 宮本 伸也先生 ・東和病院 畠山 知規先生 → 松浦 和博先生 ・九戸地域診療センター 中村 正先生 → 菅原 敏先生 ○分科会代表世話人 ・総合診療 千厩：下沖 収先生 → 中部：山田 哲也先生 ⇒承認。</p> <p>2 平成 28 年度決算及び監査報告について 事務局より平成 28 年度医学会決算について報告。 ⇒承認。</p> <p>3 平成 28 年度診療科別分科会の開催実績について 事務局より資料に沿って説明。過去最多の 52 回の開催となった。開催 1 回あたりの執行額が例年より低額となった要因は会員もしくは県立病院職員が講師である講演会が多く開催されたためである。 ⇒今年度からは会員及び県立病院職員が講師を務めた場合は謝礼相当として図書カードを贈呈することとなっていたが、よろしいか。 ⇒その通りである。すでに、今年度開催された分科会で実績もある。 ⇒承認。</p>							

会議名称	学会委員会（平成 29 年度第 1 回）
日 時	平成 29 年 6 月 16 日（金）15:30～16:30
場 所	中央病院 4 階第 4 会議室

【協議事項】

1 平成 29 年度医学会予算（案）について

事務局より資料に沿って説明。まず、これまでの予算・決算について補助金の交付元である医療局医師支援推進室より予算については前年度繰越額を含めること、決算については翌年度繰越額が発生することはおかしいのではないかと指摘を受けました。繰越額が発生する場合、補助金が不要との見方もできるため、今年度予算について協議した。結果、これまでは補助金 320 万円を満額交付されていたが、補助額の上限を 320 万円として精算の形で運営を行っていくこととしたい。よって、今年度より収入については前年度繰越額を 0 円として編成、支出については繰越額 0 円として編成を行った。なお、平成 28 年度決算において繰越となった約 177 万円については、補助金が交付されるまでの間の資金として使用していくこととした。（医療局との協議において、補助金が申請～交付されるまでの間に 3 か月以上の期間があり、その間、医学会の資金が 0 円では活動ができないことから補助金が交付されるまでの間の資金として運用することを確認済み。）

⇒この場合、繰越額である約 177 万円の使用用途が見えない。会員へ明確にしなくてはならないのではないかと。

⇒その通りである。当年度の予算編成とは別の会計で特別予算ということで管理していくことではいかがかと。

⇒承認。評議員会にて協議することとする。

2 平成 29 年度診療科別分科会の開催状況について

事務局より資料に沿って説明。今年度第 1 回の分科会が 5 月 1 日に開催され、現在のところ 8 回の開催予定となっている。

（伊藤会長より）

⇒とある分科会の開催で出席者の大半以上が会員以外であり、司会・進行も会員以外の方が行った分科会の開催があった。分科会の開催は会員が主体でなければならない。院内研修までは認めるが、会員以外の方が分科会を仕切ることにはあってはならない。評議員会においても同様に報告したい。

⇒参加者（対象者）を事前に把握することは可能か。

⇒分科会開催申込書のみで参加者（対象者）を判断することは難しい。医学会として開催していることを再度確認していただきたい。

⇒承認。

3 医学会名誉会員の推薦について

事務局より資料に沿って説明。名誉会員推薦基準を満たした会員は以下の 4 名。

○評議員をおおむね 10 年以上担当した会員

・九戸地域診療センター 理事兼副地域診療センター長 中村 正先生

○評議員、学会委員、編集委員（査読委員含む）並びに分科会代表世話人のそれぞれの任期の通算が 10 年以上であった会員

・中央病院 参与 鈴木 博先生

・中央病院 参与兼沼宮内地域診療センター長 川村 実先生

・千厩病院 病院長 下沖 収先生

⇒承認。評議員会にて承認手続きへ。

会議名称	学会委員会（平成 29 年度第 1 回）
日 時	平成 29 年 6 月 16 日（金）15:30～16:30
場 所	中央病院 4 階第 4 会議室
	<p>4 第 6 回岩手県立病院総合学会（第 4 9 回岩手県立病院医学会総会）について</p> <p>(1) 概要 野崎副会長より説明。 開催日時 ・総合学会及び懇親会：平成 29 年 9 月 2 日（土） ・親睦ゴルフ：平成 29 年 9 月 3 日（日） 会場 ・総合学会：マリオス、アイーナ（開会式は 8：50～の予定。） ・懇親会：メトロポリタン盛岡 NEW WING（18：00～の予定） ・親睦ゴルフ：南部富士カントリークラブ（スタートは 9：22） テーマ 『地域になくてはならない病院 ～人を育て、医療の質・経営の質を高める～』</p> <p>内容</p> <p>I パネルディスカッション テーマ「多職種協働による人材育成と病院の質向上 ～各職域からの提案と実践～」 座長：(医学会（中央病院副院長))、高橋 弥栄子（副総合学会長（中部病院総看護師長)) パネリスト：野崎 英二（医学会（中央病院統括副院長))、河野 聡（事務局長会（中部病院事務局長))、外館 幸子（看護研究学会（久慈病院総看護師長))、勝馬田 康昭（薬剤師会（一戸病院薬剤科長))、佐藤 一浩（リハビリテーション療法士会（宮古病院リハビリテーション技師長))</p> <p>II 特別講演 『生命（いのち）輝かそう岩手県立病院』 座長：望月 泉（総合学会長（中央病院長)) 講師：邊見 公雄 先生（公益社団法人全国自治体病院協議会長）</p> <p>III 昼食【医学会総会／医師連総会】</p> <p>IV 学会長講演 『タイトル未定』 座長：伊藤 達朗（副総合学会長（大船渡病院長)) 講師： 望月 泉（第 6 回岩手県立病院総合学会 会長（中央病院長))</p> <p>V 各部門学会</p> <p>懇親会（18：00～） ⇒承認</p> <p>(2) 演題登録一覧 野崎副会長より資料に沿って説明。 ⇒まだまだ演題登録数が足りない。演題登録期限を 6 月 21 日（水）正午まで際延長したことから会員である院内の医師へさらなる協力をお願いする。</p> <p>(3) 各病院等への開催案内（案） 事務局より資料に沿って説明。 ⇒承認。</p> <p>5 第 5 0 回岩手県立病院医学会総会（第 6 回総合学会）について 伊藤会長より説明。 ⇒開催予定日が 9 月 2 日（日）、9 月 9 日（日）が候補となっているが、例年 9 月 1 日近辺で県の総合防災訓練が開催されていることから、現時点では 9 月 9 日（日）を第 1 候補として</p>

会議名称	学会委員会（平成 29 年度第 1 回）
日 時	平成 29 年 6 月 16 日（金） 15:30～16:30
場 所	中央病院 4 階第 4 会議室

いる。総合防災室においては、来年度の開催については現在未定であり 10 月に入ってから計画を立てるということであった。先に予定を入れておくことも良いと思う。また、前夜祭の際に 50 周年記念祝賀会も行うこととしたい。周知対象を広くしたい。

⇒承認。

6 第 5 1 回岩手県立病院医学会総会について

伊藤会長より説明。担当病院は宮古病院としたい。退官される先生に総会長を務めていただくということを考慮すると、沿岸が続くが宮古病院長の村上先生にお願いをしたい。

⇒承認。評議員会にて協議する。

7 平成 29 年度春季学術集会について

事務局より資料に沿って説明。講師推薦について推薦がなかった。

⇒伊藤会長より。沖縄県立中部病院 感染症内科部長の成田先生を研修医セミナーと午後の講演の講師として推薦したい。岩手医科大学のご出身で海外留学の経験もある先生である。いかがか。

⇒承認。もう一人をどうするか。文化人でも良いが、謝礼のことを考えると医療関係者が良いと思う。

⇒それでは、もう一人の講師については事務局よりメールにて再度評議員へ講師推薦の依頼を行うこと。